

基準5 準学士課程の教育課程・教育方法

<p>評価の視点</p> <p>5-1 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準等が適切であること。</p>	
<p>観点5-1-1-① 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 観点1-2-②の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえた授業科目の配置となっているか分析すること。</p>	
<p>関係法令 (設)第15条、第16条、第17条、第17条の2</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて、適切な授業科目を体系的に配置しているか。</p> <p>■配置している</p> <p>□配置していない</p>	<p>◇カリキュラム一覧表、授業科目系統図等の授業科目配置状況がわかる資料</p> <p>資料5-1-1-(1)-01 授業科目配置状況がわかる資料</p> <p>出典「令和元年度シラバス 各学科の学習・教育目標と科目の配置、教育課程表」</p> <p>https://www.fukui-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2019/06/R1-Syllabus-2.pdf</p> <p>※資料5-1-1-(1)-01より、1年次より専門科目を配置し一般科目との連携を図りながら教育していることがわかる。学年進行とともに専門科目が増加し、演習や実験科目も充実している。したがって、カリキュラム・ポリシーを踏まえて適切に授業科目が配置されていると判断する。</p>
<p>(2) 一般教育の充実に配慮しているか。</p> <p>■配慮している</p> <p>□配慮していない</p>	<p>◇配慮していることがわかる資料</p> <p>資料5-1-1-(2)-01 一般教育の充実に配慮していることがわかる資料</p> <p>出典「令和元年度シラバス 一般科目 科目系統図（抜粋）」</p> <p>https://www.fukui-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2019/06/R1-Syllabus-2.pdf</p> <p>※一般科目は低学年に多く配置されており、高学年になるにつれて少なくなる。本校では、5学年に言語文化特講、日本語表現演習、日本文学論、哲学、歴史学特講、数学特講、英語特講など、多くの選択必修科目を配置しており、</p>

	一般科目の充実に配慮している。
<p>(3) 進級に関する規定を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>◇進級に関する規定の整備状況がわかる資料</p> <p>資料 5-1-1-(3)-01 進級に関する規定の整備状況がわかる資料</p> <p>出典「学業成績の評価並びに進級及び卒業の認定に関する規則（第1条）」</p>
<p>(4) 1年間の授業を行う期間を定期試験等の期間を含め、35週確保しているか。</p> <p>■確保している</p> <p>□確保していない</p>	<p>◇35週が確保されている状況が確認できる資料（学年暦等。）</p> <p>資料 5-1-1-(4)-01 35週が確保されている状況がわかる資料</p> <p>出典「平成31年度行事予定表」</p>
<p>(5) 特別活動を90単位時間以上実施しているか。</p> <p>■実施している</p> <p>□実施していない</p>	<p>◇特別活動の実施状況がわかる資料（学年暦等。）</p> <p>資料 5-1-1-(5)-01 特別活動の実施状況がわかる資料</p> <p>出典「平成31年度前期時間割」</p> <p>資料 5-1-1-(5)-02 特別活動の実施状況がわかる資料</p> <p>出典「平成30年度後期時間割」</p> <p>資料 5-1-1-(5)-03 特別活動の実施状況がわかる資料</p> <p>出典「平成31年度前期特別活動計画表」</p> <p>資料 5-1-1-(5)-04 特別活動の実施状況がわかる資料</p> <p>出典「平成30年度後期特別活動計画表」</p>
<p>観点5-1-② 教育課程の編成及び授業科目の内容について、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等が配慮されているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 例えば、国際的に活躍できる技術者の養成が目的に含まれる場合には、外国語の伝達と読解の基礎能力育成について分析するなど、目的や卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして授業科目の内容の工夫を行っているか分析すること。</p> <p>○ この観点では教育課程の編成について分析するものであり、正規の教育課程とは別に実施しているもの（例えば、補習や補講等。）は、この観点的対象ではないことに留意すること。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第19条、第20条</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等を踏まえ、教育課程における具体的な配慮としてどのようなことを行っているか。（該当する選択肢</p>	<p>◇チェックした配慮項目に関して、実施状況がわかる資料</p> <p>資料 5-1-2-(1)-01 校外実習の単位認定がわかる資料</p>

<p>にチェック■する。)</p> <p><input type="checkbox"/>他学科の授業科目の履修を認定</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>インターンシップによる単位認定</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>正規の教育課程に関わる補充教育の実施</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>専攻科課程教育との連携</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>外国語の基礎能力（聞く、話す、読む、書く）の育成</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>資格取得に関する教育</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>他の高等教育機関との単位互換制度</p> <p><input type="checkbox"/>個別の授業科目内での工夫</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>最先端の技術に関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p>	<p>出典「教務に関する申し合わせ事項」</p> <p>資料 5-1-2-(1)-02 正規の教育課程に関わる補充授業がわかる資料</p> <p>出典「平成 30 年度学力強化期間実施概要」</p> <p>資料 5-1-2-(1)-03 正規の教育課程に関わる補充授業がわかる資料</p> <p>出典「高学年学生を TA にした数学科の補講」</p> <p>資料 5-1-2-(1)-04 専攻科課程との連携がわかる資料</p> <p>出典「令和元年度シラバス 専攻科科目系統図」</p> <p>https://www.fukui-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2019/06/R1-Syllabus-4.pdf</p> <p>資料 5-1-2-(1)-05 外国語の基礎能力の育成がわかる資料</p> <p>出典「本科 1 年生 コミュニケーションのシラバス」</p> <p>https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=19&department_id=18&subject_id=0036&year=2019&lang=ja</p> <p>資料 5-1-2-(1)-06 外国語の基礎能力の育成がわかる資料</p> <p>出典「本科 5 年 英語 V のシラバス」</p> <p>https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=19&department_id=12&subject_id=0162&year=2015&lang=ja</p> <p>資料 5-1-2-(1)-07 資格取得に関する教育がわかる資料</p> <p>出典「機械設計技術者の補講」</p> <p>資料 5-1-2-(1)-08 資格取得に関する教育がわかる資料</p> <p>出典「測量士補」</p> <p>実地審査資料 資格取得に関する教育の成果がわかる資料</p> <p>出典「H30 年度資格取得者一覧」</p> <p>資料 5-1-2-(1)-09 他の高等教育機関との単位互換制度がわかる資料</p> <p>出典「福井県内の大学等との単位互換に関する協定書」</p> <p>資料 5-1-2-(1)-10 他の高等教育機関との単位互換制度がわかる資料</p> <p>出典「放送大学との単位互換に関する協定書」</p> <p>資料 5-1-2-(1)-11 最先端の技術に関する教育がわかる資料</p> <p>出典「福井高専 50 周年記念事業講演会リーフレット」</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。</p>
---	---

<p>(2) 他の高等教育機関との単位互換制度を設けている場合、法令に従い適切に取り扱っているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 適切に取り扱っている</p> <p><input type="checkbox"/> 適切に取り扱っていない</p> <p><input type="checkbox"/> 単位互換制度を設けていないので、該当しない</p>	<p>◇単位互換制度の内容がわかる資料</p> <p>資料 5-1-2-(2)-01 単位互換を適切に取り扱っていることがわかる資料</p> <p>出典「福井高専学則 53 条」</p>
<p>観点 5-1-1-③ 創造力・実践力を育む教育方法の工夫が図られているか。</p>	
<p>【留意点】</p> <p>○ 創造力を育む教育方法の工夫がわかる資料には、PBL型の授業や創造型の演習等における具体的な教育方法の工夫がわかる資料を提示すること。</p> <p>○ 創造力を育む教育方法の工夫については、学校としてどう捉え、どう展開しているかを踏まえて分析すること。</p> <p>○ 実践力を育む教育方法の工夫がわかる資料には、インターンシップの活用等の具体的な教育方法の工夫がわかる資料を提示すること。</p> <p>(注) PBLとは、プロジェクト課題を学生にグループ単位で与え、その課題を達成するためのアイデアの創出、計画立案、実現等を学生自身に遂行させることにより、学生の学習意欲、知識の活用能力、計画立案・遂行能力、ディベート能力、プレゼンテーション能力、組織運営能力等の向上を図るための学習・教育の方法のこと。Problem-based Learning 又は Project-based Learning の略。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 創造力を育む教育方法の工夫を行っているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 行っている</p> <p><input type="checkbox"/> 行っていない</p>	<p>◇創造力を育む教育方法の工夫がわかる資料（PBL型の授業や創造型の演習の実施等）</p> <p>（再掲）資料 5-1-1-(1)-01 授業科目配置状況がわかる資料</p> <p>出典「令和元年度シラバス 各学科の学習・教育目標と科目の配置、教育課程表」</p> <p>https://www.fukui-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2019/06/R1-Syllabus-2.pdf</p> <p>◇実施状況がわかる資料</p> <p>資料 5-1-3-(1)-01 創造力を育む教育方法の工夫を行っていることがわかる資料</p> <p>出典「機械工学科 知能機械演習シラバス」</p> <p>https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=19&department_id=12&subject_id=0123&year=2016&lang=ja</p> <p>資料 5-1-3-(1)-02 創造力を育む教育方法の工夫を行っていることがわかる資料</p> <p>出典「電気電子工学科 情報処理Ⅱシラバス」</p>

	<p>https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=19&department_id=13&subject_id=0131&year=2017&lang=ja</p> <p>資料 5-1-3-(1)-03 創造力を育む教育方法の工夫を行っていることがわかる資料</p> <p>出典「電子情報工学科 創造工学演習シラバス」</p> <p>https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=19&department_id=14&subject_id=0124&year=2016&lang=ja</p> <p>資料 5-1-3-(1)-04 創造力を育む教育方法の工夫を行っていることがわかる資料</p> <p>出典「物質工学科 物質工学実験 I シラバス」</p> <p>https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=19&department_id=15&subject_id=0018&year=2018&lang=ja</p> <p>資料 5-1-3-(1)-05 創造力を育む教育方法の工夫を行っていることがわかる資料</p> <p>出典「環境都市工学科 構造デザインシラバス」</p> <p>https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=19&department_id=17&subject_id=0140&year=2015&lang=ja</p> <p>資料 5-1-3-(1)-06 創造力を育む教育方法の工夫を行っていることがわかる資料</p> <p>出典「学際科目 プロジェクト演習シラバス」</p> <p>https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=19&department_id=19&subject_id=0007&year=2016&lang=ja</p> <p>※資料 5-1-3-(1)-01 から資料 5-1-3-(1)-05 に示す通り、これまでにも全学科において PBL 型の演習を開講してきた。令和元年度より、4 年生の学際科目において「プロジェクト演習」を開講しており、専門の異なる学生がチームを組んで PBL 型の学習に取り組んでいる。</p> <p>◆工夫を行った結果、学生が創造力を発揮し、あげた成果や効果があれば具体的に、資料を基に記述する。</p> <p>資料 5-1-3-(1)-07 学生が創造力を発揮しあげた成果がわかる資料</p> <p>出典「デザコン 2018 AM デザイン部門入賞」</p> <p>http://xn-tckf4c8j.com/docs.php?n=bumon4_kekka.pdf</p>
--	---

	<p>資料 5-1-3-(1)-08 学生が創造力を発揮しあげた成果がわかる資料</p> <p>出典「プロコン第 29 回阿南大会本選結果」</p> <p>http://www.procon.gr.jp/wp-content/uploads/2018/10/results.pdf</p> <p>※全国高専デザインコンペティション 2018 の AM デザイン部門や全国高専プログラミングコンテスト第 29 回阿南大会において、機械工学科の学生や電子情報工学科の学生が入賞し表彰を受けた。</p>
<p>(2) 実践力を育む教育方法の工夫を行っているか。</p> <p>■行っている</p> <p>□行っていない</p>	<p>◇実践力を育む教育方法の具体的な工夫がわかる資料 (インターンシップの実施等。)</p> <p>資料 5-1-3-(2)-01 実践力を育む教育の工夫がわかる資料</p> <p>出典「科目系統図」</p> <p>https://www.fukui-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2019/06/R1-Syllabus-2.pdf</p> <p>※本校では、学習・教育目標の RE において実践力を育む教育を実施している。</p> <p>資料 5-1-3-(2)-02 実践力を育む教育の工夫がわかる資料</p> <p>出典「インターンシップガイダンス資料」</p> <p>資料 5-1-3-(2)-03 実践力を育む教育の工夫がわかる資料</p> <p>出典「オーストラリア研修プログラム 2018 説明会資料」</p> <p>資料 5-1-3-(2)-04 実践力を育む教育の工夫がわかる資料</p> <p>出典「トビタテ！留学 JAPAN 地域人材コースにかかる説明会」</p> <p>◇実施状況がわかる資料</p> <p>資料 5-1-3-(2)-05 実践力を育む教育の実施状況がわかる資料</p> <p>出典「機械工学実験 I シラバス」</p> <p>https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=19&department_id=12&subject_id=0120&year=2016&lang=ja</p> <p>資料 5-1-3-(2)-06 実践力を育む教育の実施状況がわかる資料</p> <p>出典「機械工学実験 II シラバス」</p> <p>https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=19&department_id=12&subject_id=0136&year=2015&lang=ja</p>

	<p>資料 5-1-3-(2)-07 実践力を育む教育の実施状況がわかる資料 出典「機械工学科卒業研究シラバス」 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=19&department_id=12&subject_id=0137&year=2015&lang=ja</p> <p>資料 5-1-3-(2)-08 実践力を育む教育の実施状況がわかる資料 出典「電気電子工学実験Ⅲシラバス」 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=19&department_id=13&subject_id=0114&year=2016&lang=ja</p> <p>資料 5-1-3-(2)-09 実践力を育む教育の実施状況がわかる資料 出典「電気電子工学実験Ⅳシラバス」 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=19&department_id=13&subject_id=0135&year=2015&lang=ja</p> <p>資料 5-1-3-(2)-10 実践力を育む教育の実施状況がわかる資料 出典「電気電子工学科卒業研究シラバス」 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=19&department_id=13&subject_id=0131&year=2015&lang=ja</p> <p>資料 5-1-3-(2)-11 実践力を育む教育の実施状況がわかる資料 出典「電子情報工学実験Ⅲシラバス」 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=19&department_id=14&subject_id=0129&year=2016&lang=ja</p> <p>資料 5-1-3-(2)-12 実践力を育む教育の実施状況がわかる資料 出典「電子情報工学実験Ⅳシラバス」 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=19&department_id=14&subject_id=0141&year=2015&lang=ja</p> <p>資料 5-1-3-(2)-13 実践力を育む教育の実施状況がわかる資料 出典「電子情報工学科卒業研究シラバス」 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=19&department_id=14&subject_id=0141&year=2015&lang=ja</p>
--	--

	<p>ent_id=14&subject_id=0143&year=2015&lang=ja</p> <p>資料 5-1-3-(2)-14 実践力を育む教育の実施状況がわかる資料</p> <p>出典「材料工学実験 I シラバス」</p> <p>https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=19&department_id=15&subject_id=0142&year=2016&lang=ja</p> <p>資料 5-1-3-(2)-15 実践力を育む教育の実施状況がわかる資料</p> <p>出典「材料工学実験シラバス」</p> <p>https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=19&department_id=15&subject_id=0128&year=2015&lang=ja</p> <p>資料 5-1-3-(2)-16 実践力を育む教育の実施状況がわかる資料</p> <p>出典「生物工学実験 I シラバス」</p> <p>https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=19&department_id=15&subject_id=0123&year=2016&lang=ja</p> <p>資料 5-1-3-(2)-17 実践力を育む教育の実施状況がわかる資料</p> <p>出典「生物工学実験シラバス」</p> <p>https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=19&department_id=15&subject_id=0133&year=2015&lang=ja</p> <p>資料 5-1-3-(2)-18 実践力を育む教育の実施状況がわかる資料</p> <p>出典「物質工学科卒業研究シラバス」</p> <p>https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=19&department_id=15&subject_id=0126&year=2015&lang=ja</p> <p>資料 5-1-3-(2)-19 実践力を育む教育の実施状況がわかる資料</p> <p>出典「環境都市工学実験実習Ⅲシラバス」</p> <p>https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=19&department_id=17&subject_id=0143&year=2016&lang=ja</p> <p>資料 5-1-3-(2)-20 実践力を育む教育の実施状況がわかる資料</p> <p>出典「構造デザインシラバス」</p> <p>https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=19&department_id=17&subject_id=0143&year=2016&lang=ja</p>
--	--

	<p>k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=19&department_id=17&subject_id=0140&year=2015&lang=ja</p> <p>資料 5-1-3-(2)-21 実践力を育む教育の実施状況がわかる資料</p> <p>出典「環境都市工学科卒業研究シラバス」</p> <p>https://syllabus.kosen- k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=19&department_id=17&subject_id=0129&year=2015&lang=ja</p> <p>資料 5-1-3-(2)-22 実践力を育む教育の実施状況がわかる資料</p> <p>出典「2018 年度学生の海外研修報告会」</p> <p>資料 5-1-3-(2)-23 実践力を育む教育の実施状況がわかる資料</p> <p>出典「海外を経験している学生数の推移（国際交流室）」</p> <p>◆工夫を行った結果、学生が実践力を発揮し、あげた成果や効果があれば具体的に、資料を基に記述する。</p> <p>資料 5-1-3-(2)-24 学生が実践力を発揮しあげた成果がわかる資料</p> <p>出典「総務省北陸総合通信局主催 G 空間×ICT 北陸まちづくりトライアルコンクール入賞」</p> <p>資料 5-1-3-(2)-25 学生が実践力を発揮しあげた成果がわかる資料</p> <p>出典「ロボットカーコンテスト優勝」</p> <p>資料 5-1-3-(2)-26 学生が実践力を発揮しあげた成果がわかる資料</p> <p>出典「青武台だより NO.218、p.13 優秀学生賞受賞者一覧」</p> <p>https://www.fukui-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2019/03/2f2ef66c75ca0f916659df8dc91a403e.pdf</p> <p>※総務省北陸総合通信局が主催する G 空間×ICT 北陸まちづくりトライアルコンクールにおいて、環境都市工学科や電子情報工学科の学生が入賞している。また、GPS・QZSS ロボットカーコンテスト 2015 のダブルパイロンレースで電子情報工学科の学生が優勝している。さらに、卒業研究に取り組んだ内容を学会等で発表し優秀学生賞を受賞するなど、実践力を身につけた成果をあげている。</p>
--	--

<p>5-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>教育課程はカリキュラム・ポリシーに基づき、適切に整備されている。とくに、本校では、平成28年度入学生から「環境・エネルギー群」、「情報・制御群」、「材料科学群」の3つの学際領域科目群を教育課程に加えた。本校の基本理念にある「社会の多様な発展に寄与できる技術者を育成する」ことを念頭に置き、5つの学科から各群に相当する科目を抽出し、他学科の学生でも積極的に履修できるようにしている。また、学際カリキュラムに必須科目として4年生にプロジェクト演習を開講している。この演習では、様々な分野のテーマについて、他学科の学生を含むチームを編成し、オープンエンドな問題に対しての具体的な解決案を提案する内容の学習活動を行っている。これまでの各学科のPBL教育に加え、他学科の学生と共同するカリキュラムを展開している。</p> <p>また、国際交流室が中心となり、学生の海外派遣に力を入れている。本校の養成すべき人材像の一つに「調和と協調を意識して国際的に活躍できる技術者」があるが、オーストラリア研修では隔年で約30名の学生が海外を経験している。</p>	
<p>評価の視点</p>	
<p>5-2 準学士課程の教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。</p>	
<p>観点5-2-① 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。</p>	
<p>【留意点】なし。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第17条の2</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実験、実習等の適切な授業形態が採用されているか。</p> <p>■採用されている</p> <p>□採用されていない</p>	<p>◇授業形態の開講状況（バランスを含む。）がわかる資料</p> <p>資料5-2-1-(1)-01 授業形態のバランスが適切であることがわかる資料</p> <p>出典「講義・演習・実験実習・実技の割合（教務係）」</p> <p>◆授業形態のバランスが適切であることについて、資料を基に記述する。</p> <p>※資料5-2-1-(1)-01に示す割合は、Webシラバスにおける授業マスタに記された「講義」、「演習」、「実験・実習」、「実技」をもとに各科目の単位数を合計して算出した。講義に関しては約70%以上を確保しており、演習や実験・実習、実技もバランス良く配置されている。</p>
<p>(2) 教育内容に応じて行っている、学習指導上の工夫には、どのような工夫があるか。（該当する選択肢にチェック■する。）</p>	<p>◇チェックした項目の実施状況がわかる資料</p> <p>資料5-2-1-(2)-01 教材の工夫がわかる資料</p> <p>出典「グラフアート」</p>

<ul style="list-style-type: none"> ■教材の工夫 ■少人数教育 ■対話・討論型授業 ■フィールド型授業 ■情報機器の活用 ■基礎学力不足の学生に対する配慮 ■一般科目と専門科目との連携 □その他 	<p>http://www.ge.fukui-nct.ac.jp/~math/graph_art/ 資料 5-2-1-(2)-02 少人数教育およびフィールド型実験実習がわかる資料 出典「環境都市工学実験実習 I シラバス」 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=19&department_id=17&subject_id=0013&year=2018&lang=ja</p> <p>※一例として上記の科目を挙げたが、各学科の実験実習は基本的にグループに分かれた少人数教育が実施されている。</p> <p>(再掲) 資料 5-1-3-(1)-06 対話・討論型授業がわかる資料 出典「プロジェクト演習シラバス」 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSyllabus?school_id=19&department_id=19&subject_id=0007&year=2016&lang=ja</p> <p>資料 5-2-1-(2)-03 情報機器の活用がわかる資料 出典「福井高専 Moodle サーバ」 https://moodle.ip.fukui-nct.ac.jp/moodle/</p> <p>資料 5-2-1-(2)-04 基礎学力不足の学生に対する配慮がわかる資料 出典「学力強化期間実施概要」</p> <p>資料 5-2-1-(2)-05 一般科目と専門科目の連携がわかる資料 出典「H29 年度教員間ネットワーク会議議事録」</p> <p>◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。</p>
<p>観点 5-2-② 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。</p>	
<p>【留意点】なし。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設) 第 17 条、第 17 条の 3</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	
<p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない 	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>

<p>(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて適切に設定された項目に基づきシラバスを作成しているか。（該当する選択肢にチェック■する。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■授業科目名 ■単位数 ■授業形態 ■対象学年 ■担当教員名 ■教育目標等との関係 ■達成目標 ■教育方法 ■教育内容（1 授業時間ごとに記載） ■成績評価方法・基準 ■事前に行う準備学習 ■高等専門学校設置基準第 17 条第 3 項の規定に基づく授業科目か、4 項の規定に基づく授業科目かの区別の明示 ■教科書・参考文献 <input type="checkbox"/>その他 	<p>◇シラバスの作成要領や具体例等の左記内容がわかる資料</p> <p>資料 5-2-2-(1)-01 シラバスの作成要領がわかる資料 出典「Web シラバス入力手順書」</p> <p>資料 5-2-2-(1)-02 Web シラバスの作成要領がわかる資料 出典「Web シラバスの記載方法に係る説明会資料」</p> <p>資料 5-2-2-(1)-03 シラバスの具体例がわかる資料 出典「シラバスの記載要領にしたがい作成したシラバスの一例」</p> <p>◆その他の項目にチェックした場合は、具体的な内容（項目）を記述する。</p>
<p>(2) 教員及び学生のシラバスの活用状況を把握し、その把握した状況を基に改善を行っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■改善を行っている <input type="checkbox"/>改善を行っていない 	<p>◇活用状況がわかる資料</p> <p>資料 5-2-2-(2)-01 シラバスの活用状況がわかる資料 出典「授業点検シート」</p> <p>※シラバスの印刷物は、各科目の 1 週目に学生に配布し、授業の概要や到達目標、内容、方法、評価基準などを周知している。シラバスの活用状況を把握するために、科目担当教員が授業点検シートを記載し、シラバスの活用状況を把握することになった。実地審査の際に平成 30 年度の授業点検シートを提示する。</p> <p>実地審査資料 平成 30 年度の授業点検シート</p> <p>◆改善を行った事例があれば、改善内容について、資料を基に記述する。</p> <p>資料 5-2-2-(2)-02 シラバス改善事例がわかる資料 出典「旧シラバスと新シラバスの比較」</p> <p>資料 5-2-2-(2)-03 シラバス改善事例がわかる資料 出典「ループリックの記載例」</p> <p>※創造教育開発センターが主体となって、シラバスの改善</p>

	<p>に取り組んでいる。旧シラバスと新シラバスを比較すると、ルーブリックが組み込まれたことがわかる。創造教育開発センター長よりルーブリックの記載例が示され、これを基に各科目のルーブリックが作成された。</p>
<p>(3) 設置基準第 17 条第 3 項の 30 単位時間授業では 1 単位当たり 30 時間を確保しているか。</p> <p>■確保している □確保していない</p>	<p>◇状況が確認できる資料（学年暦、時間割等。）</p> <p>（再掲）資料 5-1-1-(4)-01 出典「平成 31 年度行事予定」</p> <p>（再掲）資料 5-1-1-(5)-01 出典「平成 31 年度前期時間割」</p> <p>（再掲）資料 5-1-1-(5)-02 出典「平成 30 年度後期時間割」</p>
<p>(4) (3) の 30 単位時間授業では、1 単位時間を 50 分としているか。</p> <p>□ 1 単位時間＝50 分で規定・運用 ■ 1 単位時間＝50 分で規定、45 分で運用</p>	<p>◆ 1 単位時間を 50 分以外で運用している場合は、標準 50 分に相当する教育内容を確保していることについて、学校の現状を踏まえ、資料を基に記述する。</p> <p>資料 5-2-2-(4)-01 1 単位時間を 45 分で運用していることがわかる資料</p> <p>出典「2019 年度学生便覧 p.3 学期と授業時間」</p> <p>※本校では、2 単位時間について 90 分で授業を行っている。2 単位連続授業により、授業の導入、出欠確認、課題回収、復習およびまとめが効率的になるため、不足分を補って講義できている。標準 50 分に相当する教育内容を確保できており適切である。</p>
<p>(5) 1 単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて 45 時間である授業科目を配置している場合には、授業科目ごとのシラバス、あるいはシラバス集、履修要項等に、1 単位の履修時間は授業時間以外の学修等を合わせて 45 時間であることを明示しているか。</p> <p>■明示している □明示していない</p>	<p>◇シラバス集、履修要項等の明示状況がわかる資料</p> <p>資料 5-2-2-(5)-01 1 単位の履修時間が 45 時間であることがわかる資料</p> <p>出典「本科シラバスの解説 はじめに、履修単位と学修単位について（福井高専 HP）」</p> <p>https://www.fukui-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2019/06/R1-Syllabus-1.pdf</p>
<p>(6) (5) の履修時間の実質化のための対策としてどのような方策を講じているか。（該当する選択肢にチェック ■ する。）</p> <p>■授業外学習の必要性の周知 ■事前学習の徹底 ■事後展開学習の徹底 □授業外学習の時間の把握</p>	<p>◇チェックした方策の具体的な内容がわかる資料</p> <p>資料 5-2-2-(6)-01 授業外学習が必要なことがわかる資料</p> <p>出典「学修単位科目のシラバスの一例」</p> <p>※学修単位科目に関しては、授業外学習を課している。授業の第 1 週目にシラバスを配布するが、学修単位科目については、授業外学習が必要であることを周知している。</p>

<p><input type="checkbox"/>その他</p>	<p>なお、科目によって事前（事後）学習を徹底している。</p> <p>◆その他の項目にチェックした場合は、具体的な内容を記述する。</p>
<p>5-2 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>講義科目、実験実習科目はカリキュラム・ポリシーに基づいて適切に配置されており、情報機器を活用したアクティブラーニング、フィールド型実験実習なども展開されている。また、基礎学力が不足する低学年の学生に対し、高学年の学生がティーチングアシスタント（TA）として補講の支援を行う制度もあり、授業形態や学習指導法が良好であると言える。</p>	
<p>評価の視点</p> <p>5-3 準学士課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び卒業認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。</p>	
<p>観点5-3-① 成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。</p>	
<p>【留意点】なし。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>（設）第17条の3</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/>満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 成績評価や単位認定に関する基準を、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、策定しているか。</p> <p>■策定している</p> <p><input type="checkbox"/>策定していない</p>	<p>◇成績評価や単位認定に関する規程等の該当箇所</p> <p>資料 5-3-1-(1)-01 学業成績の評価・試験等の基準がわかる資料</p> <p>出典「学業成績に関する評価並びに進級及び卒業の認定に関する規則 第2条および第5条」</p>
<p>(2) 成績評価や単位認定に関する基準に基づき、各授業科目の単位認定等を行っているか。</p> <p>■行っている</p> <p><input type="checkbox"/>行っていない</p>	<p>◇成績評価の組織内でのチェック等、成績評価が適切に実施されていることがわかる資料</p> <p>資料 5-3-1-(2)-01 成績評価が適切に実施されていることがわかる資料</p> <p>出典「進級認定会議資料（抜粋）（教務係）」</p> <p>※科目担当者の成績評価に基づき、教務委員会において進級認定の原案が示され教員会議の審議を経て進級の認定</p>

	<p>が行われる。実地審査では進級認定会議資料を提示する。</p> <p>実地審査資料 平成 30 年度進級認定会議資料</p>
<p>(3) 1 単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて 45 時間である授業科目を配置している場合、授業時間以外の学修についての評価がシラバス記載どおりに行われていることを学校として把握しているか。</p> <p>■把握している □把握していない</p>	<p>◇学校として把握していることがわかる資料</p> <p>資料 5-3-1-(3)-01 授業外学習の評価がシラバスどおりに行われていることを把握している資料 出典「授業点検シート（教務係）」</p> <p>※令和元年度より、授業点検シートを用いて学修単位科目の授業外学習の成績評価が適切に実施されているかのチェックを行うことになった。実地審査では、平成 30 年度に実施された授業に関する授業点検シートを提示する。</p> <p>実地審査資料 平成 30 年度の授業点検シート</p>
<p>(4) 成績評価や単位認定に関する基準を学生に周知しているか。</p> <p>■周知している □周知していない</p>	<p>◇周知を図る取組の内容（学生の手引きへの掲載、ウェブサイトでの明示等。）がわかる資料</p> <p>資料 5-3-1-(4)-01 単位認定基準の周知がわかる資料 出典「平成 30 年度学生便覧 pp.5-6 学業成績の評価基準や単位認定に関する基準」</p>
<p>(5) (4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。</p> <p>□把握している ■把握していない</p>	<p>◇認知状況がわかる資料</p> <p>※各科目の 1 週目にシラバスが配布され、成績評価方法などの重要な項目が周知されている。しかし、学生の認知状況は把握できていない。</p>
<p>(6) 追試、再試の成績評価方法を定めているか。</p> <p>■定めている □定めていない</p>	<p>◇追試、再試の成績評価の規程等がわかる資料</p> <p>資料 5-3-1-(6)-01 追試の規程がわかる資料 出典「学業成績の評価並びに進級及び卒業の認定に関する規程第 4 条」</p> <p>資料 5-3-1-(6)-02 仮進級解除の規程がわかる資料 出典「教務に関する申し合わせ事項」</p> <p>※本校では、「再試」という名称ではなく仮進級解除という名称で規程が定められている。科目担当者及び仮進級学生が解除のための計画を立て、学生課教務係に提出する。なお、当該学生のクラス担任もこの計画を把握している。課題および試験等を課し合格の基準を満たした場合、教務委員会の審議を経て適切に仮進級解除の判定が行われている。</p>

<p>(7) 成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会があるか。</p> <p>■ある</p> <p>□ない</p>	<p>◇成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会の規程等がわかる資料</p> <p>資料 5-3-1-(7)-01 成績異議申し立ての規程がわかる資料</p> <p>出典「教務に関する申し合わせ事項」</p>
<p>(8) 成績評価等の客観性、厳格性を担保するため、どのような組織的な措置を行っているか。(該当する選択肢にチェック■する。)</p> <p>■成績評価の妥当性の事後チェック</p> <p>■答案の返却</p> <p>■模範解答や採点基準の提示</p> <p>□GPAの進級判定への利用</p> <p>□成績分布のガイドラインの設定</p> <p>■複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック</p> <p>■試験問題のレベルが適切であることのチェック</p> <p>□その他</p>	<p>◆実施状況や成績分布を踏まえて、成績評価や単位認定における基準の客観性・厳格性を担保するための措置が、有効に機能しているかどうかについて、資料を基に記述する。</p> <p>資料 5-3-1-(8)-01 成績評価の客観性・厳格性を担保するための措置がわかる資料</p> <p>出典「授業アンケート分析（創造教育開発センター）」</p> <p>資料 5-3-1-(8)-02 複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことを組織的に把握している資料</p> <p>出典「授業点検シート」</p> <p>※科目担当教員は、中間学力確認週間や期末試験の後の授業において答案を返却するとともに模範解答や採点基準を学生に示している。成績評価の妥当性の事後チェックおよび同じ試験問題が繰り返されていないかは授業点検シートにより確認している。また、試験問題のレベルが適切であるかは授業アンケートで確認している。</p> <p>実地審査資料 授業点検シート</p> <p>◆その他の項目にチェックした場合は、具体的な内容を記述する。</p>
<p>観点5-3-② 卒業認定基準が、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、卒業認定が適切に実施されているか。</p>	
<p>【留意点】なし。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第117条 (設)第17条第3～6項、第17条の2、第17条の3、第18条、第19条、第20条</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学則等に、修業年限を5年（商船に関する学科は5年6月。）と定めているか。</p> <p>■定めている</p>	<p>◇学則等の該当箇所がわかる資料</p> <p>資料 5-3-2-(1)-01 修業年限の規程がわかる資料</p> <p>出典「福井高専学則第2章2条」</p>

<input type="checkbox"/> 定めていない	
(2) 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、卒業認定基準を定めているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 定めている <input type="checkbox"/> 定めていない	◇定めている該当規程や卒業認定基準 資料 5-3-2-(2)-01 卒業に必要な単位数の規程 出典「福井高専学則 別表第 1（第 13 条第 2 項関係）」
(3) 卒業認定基準に基づき、卒業認定しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 認定している <input type="checkbox"/> 認定していない	◇関係する委員会等の会議資料 資料 5-3-2-(3)-01 卒業認定に基づき卒業認定していることがわかる資料 出典「卒業認定資料（教務委員会）」 資料 5-3-2-(3)-02 学習教育目標の達成度を確認していることがわかる資料 出典「卒業認定資料（教務委員会）」
(4) 卒業認定基準を学生に周知しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 周知している <input type="checkbox"/> 周知していない	◇周知を図る取組の内容（学生の手引きへの掲載、ウェブサイトでの明示等。）がわかる資料 資料 5-3-2-(4)-01 卒業認定基準の周知がわかる資料 出典「2019 年度学生便覧 pp.4-5」
(5) (4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 把握している <input type="checkbox"/> 把握していない	◇学生の認知状況を把握していることがわかる資料 資料 5-3-2-(5)-01 卒業認定基準に関する学生の認知状況がわかる資料 出典「平成 30 年度 学習教育目標に関するアンケート集計結果（教務係）」
5-3 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
該当なし	

基準 5

<p>優れた点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・ポリシーに基づいて適切に科目が配置されている。 ・各学科で PBL 教育が展開されており、学生の創造力や実践力が発揮され、全国高専デザインコンペティションや総務省北陸総合通信局が主催するコンテスト、学協会などから本校の学生が表彰を受けている。 ・平成 28 年度入学生から学際カリキュラムを導入し、「社会の多様な発展に寄与できる技術者を育成する」ことを念頭において 5 つの学科から各群に相当する科目を抽出し、他学科の学生でも積極的に履修できるようにしている。
<p>改善を要する点</p> <p>現状では成績評価や単位認定に関する基準の学生の認知状況を学校として把握できていない。認知状況の把握方法については教務委員会にて審議する。</p>